

講義名	(対面) マーケティング・データ分析		
科目区分	学科専門 展開		
担当教員	綿貫 真也		
開講期・曜日・時限	後期 水曜日 2時限	授業形態	
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース / 2018年度 人間社会学部 人間健康学科 健康マネジメントコース / 2018年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2018年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース / 2018年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース / 2018年度 人間社会学部 観光学科 /		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

<b>主題と概要</b>
<p>本講座では、ビジネス・データサイエンスの基本的な活用方法について学びます。ビジネスの現場では、様々なデータを扱うことが多く、まずは、いろんなデータが必要とされ、処理することが求められます。加えて、現在のマーケティングを含めたビジネス界では、データの処理方法として、AI（人工知能: Artificial Intelligence）・機械学習の活用が行われ始めています。学生の皆さんが、社会に入るころには、ビジネス現場でAI・機械学習の活用能力を持つことは、電卓なみに当たり前のこととなるでしょう。大切なことは、無目的に技術をふりかざすことではなく、戦略的な目的を実現するために、機械学習などの新しいテクノロジーを知り、使いこなせるようになることです。</p>

<b>到達目標</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからのマーケティング、ビジネスにおけるAI・機械学習の重要性と必要性を理解し、実際に、身近な問題に活用できるようになること。</li> <li>・分析の結果から、わかったことを自分なりに説明できるようになること。</li> <li>・ビジネスでは、さまざまな種類のデータを扱うということを理解し、そうしたデータが、皆さんの身の回りであふれているということ。</li> </ul>

<b>提出課題</b>
<p>授業中の課題および最終レポート</p>

<b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b>
<p>知識の運用能力を鍛えることを目的として、課題は実習を中心に行い、その場でフィードバックしていきます。</p>

<b>評価の基準</b>
<p>授業中の課題：50％ / 最終レポート：50％ 講義形式の変更があった場合でも成績評価方法は変更しない</p>

<b>履修にあたっての注意・助言他</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラミングの知識や数学的知識を必要ともしません。つまり、理系的素養がなくても問題ありません。</li> <li>・ニュース（新聞、ニュースアプリ、ネット、TVなど媒体問わず）で、最近のビジネスの動向に敏感になること。</li> </ul>

<b>教科書</b>
<p>.使用しない。</p>

<b>プリント資料及び参考文献</b>
<p>必要に応じて、授業中に配布、解説。</p>

<b>授業計画</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これからのマーケティング情報環境を知る</li> <li>2. マーケティング戦略における課題と取り扱うデータについて</li> <li>3. マーケティングデータサイエンスの作法と手法</li> <li>4. ターゲット戦略とデータサイエンス手法 1</li> <li>5. ターゲット戦略とデータサイエンス手法 2</li> <li>6. ターゲット戦略とデータサイエンス手法 3</li> <li>7. セグメンテーション戦略とデータサイエンス手法 1</li> <li>8. セグメンテーション戦略とデータサイエンス手法 2</li> <li>9. セグメンテーション戦略とデータサイエンス手法 3</li> <li>10. セグメンテーション戦略とデータサイエンス手法 4</li> <li>11. プライシング戦略とデータサイエンス手法 1</li> <li>12. プライシング戦略とデータサイエンス手法 2</li> <li>13. データサイエンス手法による需要予測 1</li> <li>14. データサイエンス手法による需要予測 2</li> <li>15. まとめと最終課題</li> </ol>

<b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b>
<p>ア：PBL（課題解決型学習）</p> <p>イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>ウ：ディスカッション、ディベート</p> <p>エ：グループワーク</p> <p>オ：プレゼンテーション</p> <p>カ：実習、フィールドワーク</p>

<b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b>
<p>復習が大切です。週1時間程度。</p>

<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b>
<p>クラウド型データサイエンスアプリケーションを用いて、その場でアルゴリズム解析を行い、データサイエンスモデルを作ってもらいます。さらに、その結果の分析もしてもらいます。</p>

<b>実務経験の有無及び活用</b>
<p>「実務経験あり」。解析用データは、極力、実際に実務で活用されているリアルデータを用いて、講義を行います。</p>

<b>備考</b>